

最近、保護者の方から「子育ては大変だ。」という言葉をよく耳にします。そこで、今回、家庭教育・子育てサポートグループでは、保護者の方が子育てについて自由に話し合う機会を設けました。

始めに、『今、子育てに必要なもの』と題した講話がありました。その中で、「子育ては肩をはらなくても100点でなくてもいい。子育ては失敗、成功ではなく、楽しんで子育てをしてほしい。」という話がありました。

### こんな子どもに育ててほしい

- 辛いことや苦しいことにぶつかっても、自分で起き上がる子ども。
- 大人になってから自分で働く自立した子ども。

### そのために今からしてほしいこと

- 子ども同士が人とうまくかかわれる「かかわり方」を身につける。
- 自分で勉強する「学習の仕方」を身につけさせる。

その後、グループに分かれて子育てで楽しかったことや心に残っていることをカードに書き、話し合いが行われました。「子育てをしながら自分の親の気持ちがいかに痛いほどわかる」など、保護者の方は、笑ったり共感したりと和気あいあいとした雰囲気の中で、積極的に話し合っていました。



子育て四訓

- 1 乳児はしっかり肌を離すな。
- 2 幼児は肌を離せ、手を離すな。
- 3 少年は手を離せ、目を離すな。
- 4 青年は目を離せ、心を離すな。

育児は「育自」、育見は「己育て」

### 家庭には笑い声、お子さんには笑顔がありますか？



### 保護者の感想

今日のお話で一番印象に残ったのは、「学校が楽しい条件」についてです。自分に居場所があることの大切さは、大人にも通じることだと思いました。

頭では分かっているつもりでも、改めて「待つ」ことの大切さ、子どもに寄り添って生活することの大切さを実感しました。有意義な時間でした。

### コロナ禍での子育てについて

恵泉女学園大学  
大日向 雅美 学長

感染の再拡大が続く新型コロナウイルス。親も子も、先生も強いストレスを感じながら日々過ごしている。

非常事態が続いていると考えて、完璧を求めない。

心を健やかに過ごすため、子どもを対等なメンバーとして相談しあう「家族会議」を開催してはどうか。

子どもには親や周りの人に抱っこされ、声をかけてもらうなどの密接な関わり方が必要である。走り回ったり友達とじゃれあったりして、のびのびと過ごすのが本分なのに現状ではままならない。

子どもがまとわりついてきて「あっちへ行って」と怒ってしまい、修羅場のようなことになる。

後でお母さんは、母親失格だと自分を責めてしまう。

まずは、今が異常なんだということをお大前提にしてこれからの子育て頑張してほしい。



# ほのほの



### 子育てがんばっています!

毎日、騒がしい福井家です。(笑)  
子ども達は、一緒に住んでいるじいじが大好きでいろんな話をしています。これからも、いろんな話をして、子育てを頑張ろうと思います。(笑)

祖父：片岡 巖  
父母：福井 賀啓、絵美 子ども：玲央、愛梨 (中村)

個別の相談や少人数グループの話し合いを希望される方は下記までご連絡ください。

連絡先

伊予市家庭教育・子育てサポートグループ  
☎ 982-5155 FAX.982-5156  
〒799-3193 伊予市米湊820 (伊予市教育委員会社会教育課内)

9月14日

# 子育てはたいへん!でもたのしい!!

～郡中地区公民館 家庭教育学級～

子育て中の父親や母親を地域の力でもっと支えたい、もっと楽しんでもらいたいとの願いから、郡中地区愛護班のお母さん方11名に子育てへの思いや不安などを自由に語り合ってもらいました。

話し合いでは、子育ての楽しさとともに一人に偏らない家族間の協力や安心感を得られる地域のサポート等の必要性が出されました。

## 家庭教育をめぐる社会の動向 (子育てサポーターの講話)

- 三世帯世帯の割合がこの20年間で半減するなど、核家族化が一層進展。
- 共働き世帯や一人親家庭の増加による子育てへの影響。
- 児童虐待の増加や親の虐待が子につながる負の連鎖、少子化による過保護や過干渉等。
- 地域における子ども集団の形成が困難、いじめ、不登校、ひきこもりの増加等、子どもを取り巻く社会環境の変化。
- 親子のコミュニケーション不足やコロナ禍での子育て不安。



### 保護者の感想

みなさんの話を聞き、自分も発言し、笑顔になることもできました。来て良かったです!!

いろいろな方の話を聞いて、悩んでいるのは自分だけではないんだと少しホッとしました。子育て方法もとてもためになったので、自分の家庭にも取り入れていきたいと思います。



9月15日 火

# 子どもとともに成長を願って

～中村地区公民館 子育て座談会～

北山崎校区愛護班連絡協議会役員と家庭教育・子育てサポートグループ、総勢20名参加の下、今年度はコロナ禍でしたが、市当局の万全の対策で標記の会を開催しました。

サポートグループ、上本リーダーの「子育ての現状と課題」の話の後、3つのグループに分かれ、次のような話し合いをしました。

## ① 子育てで楽しかったこと心に残っていること

- 「初めて笑った」「初めて寝返りした」等の喜びや感動。
- 家族で出かけたり、キャンプに行ったりして、非日常の中で子どもと向き合っているとき。
- 「縄跳び」など、出来なかったことが出来るようになったとき。
- 家族全員でアルバムを見て、成長を確認し合っているとき。

## ② 子育てがよかったこと、その対処法

- 「夜泣き」や「急な発熱」等初めての子育てでどうしていいかわからなかったとき。
- あまりつらくなかった。それは、特別な反抗期を感じないのは、祖父母や親戚、地域の仲間が子どもの悩みを聞いてくれたり、サポートしてくれたりしているからだと思う。
- 家ではわがままでなかなか言うことを聞かないが、「親は甘えさせてくれる」という安心感の中にいるからだと思う。

## ③ コロナ禍、家族で心掛けていること

- 手洗い・うがいの徹底。
- ストレスがたまらないように、家族で室内遊びを工夫したり、散歩に出かけたりしている。
- 子どもたちは、状況を受け止め冷静に対応しているように感じる。

### 保護者の感想

自分の子育てが正しいか正しくないかを考えてしまうこともありました。しかし、他の方の子育ての思いや考えを聞くことで、さらに、子どもとの毎日の時間を楽しく大切に過ごしたいと思いました。



数名のお父さんの参加があり、違った視点から話し合いを盛り上げていただきました。北山崎校区では、「地域ぐるみの子育て」が行われており、ともに子育てを楽しんでおられると安心しました。

10月24日 土

ふるさと体験塾 コラボ企画

# ふたみの井戸端会議

～双海地区公民館 家庭教育学級～

子育て  
ホンネ  
トーク

今回は第3回ふるさと体験塾とのコラボで、子どもと保護者の合同開催となりました。

最初に、絵本「しげちゃん」の読み語りを聞きました。この本は、俳優の室井滋さんの子どもの頃のお話です。「しげる」という男の子のような名前のため、子ども達からいやがらせをされ、辛い思いをしている。この名前はいやだと母親に訴えました。

どうしてこの名前にしたのかの理由を聞くと、とても大切で素敵な名前だと分かりそれから自慢の名前になるという話です。

この話のように、子どもにつけた名前の由来を発表し合いました。

みんな、願いをこめて命名しています。子ども達に分かってもらいたいと思いました。

その後、子育ての悩みについて話し合いました。一番の悩みは、「ワンオペ育



児でパンク寸前」ということでした。子育ては、一人だけではなく力を合わせてすることが大切です。

「ふたみの井戸端会議」というだけあって、気軽にホンネで話し合えてすばしかったです。

### 保護者の感想

はじめの「しげちゃん」の絵本から名前の由来などの話がきっかけとなり、話しやすい雰囲気でした。

「大変なのは、自分だけじゃない」いろんな方と子育てのこと、夫婦のこと等々、話すだけで気持ちがすごく楽になると思います。



保護者が家庭教育学級で学習している間、双海地区公民館事業の第3回ふるさと体験塾「秋の収穫祭&防災学習」を開催。子ども達は大きく実ったさつまいもを丁寧に掘り起こし、たくさん収穫していました。

昼食はペットボトルでピザ生地を作り、段ボールで作ったオーブンで焼いて食べました。

家庭教育学級「ふたみの井戸端会議」に参加した保護者もその後ピザづくりと一緒に楽しみました。

